

平成 26 年度 追手門学院中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

学院教育理念「独立自彊（自ら努め励む）・社会有為（世のため、人のために尽くす）」を学習・生活・行事・HR・クラブ活動など、すべての教育活動の基軸に据えて、「自己肯定感」と「関係性の力」をキーワードに人間形成教育を実践します。
そして、自主的自立的な精神と確かな個性をもち、同時にまた、他者や社会のことを考え、豊かな社会性を持つ人物の育成を目指します。

2 中期的目標

1 教育理念に基づく「人間形成教育」・「志の教育」の推進

- (1) 教育理念に沿った学年・クラス・クラブの「行動」目標を設定し、その達成に努める。
年度当初に中高全学年・クラス・クラブで教育理念を踏まえた「行動」目標を立てて、実践に努める。
- (2) 「志の教育」（自校教育を含む）・「心の教育」・「キャリア教育」のさらなる充実を図る
私学・追手門学院にとって、建学の精神を踏まえ、教育理念に基づく「志の教育」「心の教育」の実践は使命である。また、「キャリア教育」を推進するための独自シラバスを充実する。
- (3) 「総合学園」として「一貫連携教育」を推進する。
学院と連動して、「一貫連携」を推進する。
中学校では、追手門学院小学校の授業見学や教員交流、施設見学などを通して、追小教育について学び、小中連携の充実化を図る。
高校では「高大」の連携の意義を確認し、育成すべき人物像、目指すべき教育を明確にし、学院として「教育」の流れ、「人」の流れを強化する。特にスポーツコース・表現コミュニケーションコースを軸にして展開する。

2 「学習力」の強化

- (1) 教員の「教育力」向上に取り組む
生徒の学力向上、進路実現のためには、教員の教育力（教科指導力・生活指導力）の向上は必須であり、その結果、生徒の満足度が上がれば、さらに教員の意欲も高まるという好循環が期待される。そのために、個人的、組織的に研修の機会また研修時間を確保して学校全体で教育力の向上に取り組む。
- (2) 生徒の「学力」向上に取り組む
高校では、新設した高校選抜クラス（2015年度より「特選SSクラス」に名称変更）の充実を図り、これを機軸に難関国公立大学・国公立大学進学シフトを強化する。また、Ⅰ類クラス・Ⅱ類クラス・スポーツコース・表現コミュニケーションコースの充実を努め、生徒の第一志望進路実現を目指す。
中学校では2013年度に「SSクラス」を新設し、これを機軸に難関国公立大学・国公立大学進学シフトを強化する。
そのために本校独自の3年間・6年間を見通した「合格ストーリー」や「学力向上メソッド（反復徹底学習）」を有効に活用する。

3 特色ある教育の推進と充実

- (1) 「アウトプット教育」のさらなる充実を図る
中学年代においては、「考える力」「伝える力」を涵養することは、将来を豊かに生きる力として大切であり、そのためSSクラスでは「アウトプット講座」、Sクラスでは「コミュニケーション講座」を設け、インプット力と並行してアウトプット力を養成する。
高校年代においても、「思考力」「コミュニケーション力」「独創性」を涵養することは、将来を豊かに生きる力として大切であり、不可欠である。そのために、総合学習の時間に「表現講座」や「社会講座」を設け、インプット力と並行してアウトプット力を養成する。
また、2014年度から「表現コミュニケーションコース」を新設し、演劇教育・舞踊教育を通して、先進的なコミュニケーション教育を行い、これからの時代を豊かに生きる力を養う。
- (2) 「国際教育」の系統化を図り、より充実したプログラムの作成に努める
中学校では、国際教育の学習プログラムを整備し、実践に努める。また、系統立てたプログラムによって生徒の英語コミュニケーション力の向上を図る。
SSクラス中学2年次における「韓国英語村研修」やSSクラス・Sクラスの中学3年次における「ニュージーランド修学旅行」をさらに充実する。
高校では国際教育を通して涵養すべき力を養成するための学習プログラムを整備し、実践に努める。特に日本についての理解を深めること、また世界について学ぶこと、併せて、英語コミュニケーション力の向上を図る。
2014年度に認可された「ユネスコスクール」の取り組みを、他校とも連携を図りつつ、実質的に展開する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]	学校関係者評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人関係・学校生活（担任指導を含む）の満足度が高い ・また、学習に関する項目も満足度が高い ・特色ある教育内容の満足度がコースにより差が見られる <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人関係・学校生活（担任指導を含む）の満足度が高い ・学習に関する項目についても高い満足度であった。 ・教育理念に基づく教育への期待度が高い <p>【分析】学校生活や教育活動に対して、全般的に満足度は高い。今後も引き続き、取り組みを充実し、生徒・保護者の期待に応えたい。特に、学習分野の取り組みを、さらに高めることに注力したい。そのために、まず教員が、授業で生徒の学力を伸ばす教育力の向上に努めることが肝要である。 また高い期待がもたれる国際教育の推進を、今後さらに活性化していくことが必要である。</p>	<p>年間2回、評価委員4名の方と学校関係者評価委員会を開催。</p> <p>6月21日の第1回は学校目標・重点課題についての意見交換と授業見学、2月28日の第2回は学校評価アンケートをもとに重点課題について、今年度の総括的なご意見をいただいた。主な意見は下記の通りである。</p> <p>【第1回（6月21日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の授業見学を行ったが、全体として落ち着いた授業であった。 ・若い先生も見受けられるが、学習システムがしっかりしているので安心できる。 ・「授業力向上シート」などを使って教科リーダーが教員の育成に努めてもらうことで、教え方のレベルが統一されるので良いと思う。若手の先生には、授業力はもちろんだが、学校の校風をしっかり伝えてほしい。 <p>【第2回（2月28日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の取り組みにより、友人関係や担任の指導の面で満足度が高いのは本校の特長であり嬉しいことである。 ・卒業生やその保護者による成功体験を在校生やその保護者に話してもらい機会をもつなどして、さらに進路に関する情報を与えてほしい。 ・追手門学院大学との関係も密になってきているので、今後さらに意見交換の場をもち、高大連携を強めてもらいたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習力の強化	<p>(1) 教員の教育力向上 ア. 個人的取り組み イ. 組織的取り組み ウ. 教員育成部の取り組み</p> <p>(2) 生徒の学力向上 ア. 「学力」向上の取り組み イ. 「学習」システムの整備 ウ. 組織的取り組み</p>	<p>(1) 教員の教育力向上 ア. 教員研修部が各教科に課題を提案し、その取り組みを検証する他、各教科で独自の取り組みを行う。 イ. 授業力向上のための全体研修を実施。また、予備校研修、入試問題検討会、授業見学、追手門学院小学校での授業見学を行う。 ウ. 教科リーダー主導で授業見学を実施し、指導を行う。また、3学期からは教育アドバイザーを迎え、若手教員の育成に力を注いだ。</p> <p>(2) 生徒の学力向上 ア. 「学力」向上の指針となる数値目標を掲げ、目標達成のための実践に努める。 SSクラスのシラバスに沿った進捗の徹底。 イ. 「学力向上メソッド」「合格ストーリー」の具体的活用による学習指導・進路指導の実践。 ウ. 学年を縦横断的な視点で指導できる会議を設定し、教科・進路指導の充実を図る。</p>	<p>(1) 教員の教育力向上 ア. 長期休暇期間における課題を各教科に指示し、その後、教科研究会を実施する。(年3回実施) 授業見学週間を設定し、互いの授業見学を実施する。 イ. 学期ごとに全体研修を実施。予備校研修へ各教科5名以上の参加。小学校の授業見学に5名以上の参加。 ウ. 「授業チェックシート」をもとに教科リーダー、教育アドバイザーが若手教員を指導。 (2) 生徒の学力向上 ア. 年間指導計画に沿った授業進捗の検証と改善を図る。 イ. 「メソッド」を活用した授業を実践する。 ウ. 定期的なコース会議、進路検討会議を実施する。</p>	<p>(1) 教員の教育力向上 ア. 年3回の教科研究会を実施。学校評価アンケートでは「わかる授業」「工夫した授業」の項目で在校生の満足度が上がる。今後さらに「学力を伸ばす」授業法についての確立・共有を図り、満足度をさらに高めたい。 イ. 授業力向上については、重点テーマとして教員全体で共有し、向上に努めている。(予備校研修に39名参加。小学校の授業見学に7名参加。) 今後は、その成果となる模試の結果分析の精緻化を図り検証すること、また他校園においての研修の質を高めたい。 ウ. 教員の授業について、実践的な指導を行い、力量を高めることができたので、今年度の状況を検証し、さらに改善を図る。 (2) 生徒の学力向上 ア. 国公立大学合格に向けての的確な進路指導が図れ、難関国公立にも合格者を出せた。結果分析と学力定着に向けて、さらに学習指導・進路指導の充実を図る。 イ. メソッドは有効に活用し実践できた。今後は、新たな教育に対応できるメソッド・合格ストーリーを改善し、発展させていく。 ウ. 学期ごとにコース会議・進路検討会議を実施できた。今後は、年間を通した定期的な会議の設定を明確にしていく。</p>
2 教育理念に基づく教育	<p>(1) 学院教育理念の実践 ア. 中高各学年・クラブの取り組み イ. 「志の教育」 ウ. 「一貫連携教育」の推進</p>	<p>(1) 学院教育理念の実践 ア. 教育理念に沿った学年・クラス・クラブ「実践」目標を設定し、その達成に努めた。 イ. 全校「志」作文コンクールの実施。(「自校教育」を含む)。教員・生徒による「志」に関する校内放送や「第一志望宣言」を実施する。 ウ. 高大連携によるAP科目の実施。追手門学院小学校長による特別授業を行う。高大連携推進チームの取り組みとしてスポーツコースの大学との合同練習、表現コミュニケーションコースのダンスフェスティバル・吹奏楽の祭典を実施する。</p>	<p>(1) 学院教育理念の実践 ア. 1学期当初に「実践」目標を一覧表にして、共有化を図る。 イ. 5月28日に表彰式、その後定期的に校内放送で受賞者が作品朗読。高2の3学期に「第一志望宣言」を実施する。 ウ. 2学期よりAP科目を内部入学予定者が受講。単位を取得する。1学期末に小学校長による中1対象の国語の特別授業を実施。</p>	<p>(1) 学院教育理念の実践 ア. 教員・生徒ともに目標に基づく教育活動を意識して実践できた。課題としては、発達段階に応じた適切な目標設定になっていたかを検証し次年度につなげる。 イ. 「志の教育」は年を追うにつれて充実している。課題として、現状の中学での年間計画の検証と高校での系統的な実践シラバスの精査を行う。 ウ. AP科目を10名が受講し、全員が単位を取得。今年度の経験を活かし、内容を充実させる。特別授業も予定通り実施。次年度に向けては、こども園への職業体験の実施など、こども園まで含めた連携を推進し強化する。</p>
3 特色ある教育の推進と充実	<p>(1) 「アウトプット教育」の推進と「国際教育」の充実 ア. 「アウトプット教育」の推進 イ. 「国際教育」の充実 ウ. 総合学園としての取り組み</p> <p>(2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実 ア. スポーツコースの充実 イ. 表現コミュニケーションコースの充実</p>	<p>(1) 「アウトプット教育」の推進と「国際教育」の充実 ア. 高1選抜での「国際教育講座」、中1Sでの「コミュニケーション講座」、高校「表現コミュニケーションコース」など、アウトプット教育の新たな取り組みを軌道にのせる。 イ. ユネスコスクールの認定を受け、新たな構想の検討に取り組む。 ウ. 追手門学院大学と本校の特色あるプログラムとの接続を図る。</p> <p>(2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実 ア. 優秀な指導者のもとで、全国大会出場を目指す。また、2014年度より発足した女子ラグビー部の充実を図る。 イ. 独自シラバスによりコース1期生の心身の成長を図り、その成果として、3学期に「自画像公演」を発表する。</p>	<p>(1) 「アウトプット教育」の推進と「国際教育」の充実 ア. 新たに取り組んだコース・クラスの満足度80% イ. ユネスコスクールの認可を受ける。短期留学の実施に道筋をたてる。 ウ. 「ダンス表現」「吹奏楽の集い」など連携事業や「スポーツ強化PJ会議」を実施。 (2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実 ア. スポーツクラスの保護者満足度80%。 イ. 表現コミュニケーションコースの保護者満足度80%。</p>	<p>(1) 「アウトプット教育」の推進と「国際教育」の充実 ア. 満足度80%。コースに限られた取り組みではなく、学校全体に広げていく。 イ. 国際教育の充実に向けての基本構想を検討し、実現化に向けて有機的に系統立てた取り組みにしていく。認可を受けたユネスコスクールとしての取り組みの具現化。 ウ. 定期的な大学との連携会議をもって、今後の展開に向けての意思疎通を深める。 (2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実 ア. スポーツクラスの保護者満足度80%。全国レベルの実力はつけてきている。全国大会への出場を目標とする練習を充実する。また、在校生・保護者との連携を図りながら、進路指導を充実する。 イ. 表現コミュニケーションコースの保護者満足度80%。「自画像公演」も外部の方からも高い評価を受けた。在校生・保護者との連携を図りながら、進路指導を充実する。</p>